

理科・環境教育助成 成果報告書

第3回 期間：2005年11月～2006年10月

氏名：花田 真也 所属：福岡県嘉麻市立宮野小学校

課題名：自然とかかわり、自らの考えを深める子どもを育てる生活科・理科学習指導

1. 課題の主旨

本校児童は、自然に恵まれた地域に住んでいるにもかかわらず、自然の事物・事象に対して、主体的に働きかけようとすることが少ない実態があり、地域の自然や環境を生かし、子どもたちの感動体験を大切にした生活科・理科学習を研究することによって、本校教育目標である「自分で考え、心豊かでたくましく生き抜く力のある児童の育成」を図ることができると考え取り組んできました。

また、ふるさとを大切にする心情を養うとともに、自然現象に関心を持ち、自ら課題意識を持ち、解決していくこうとする力を養うことも目的として、研究を進めてきました。

2. 活動状況

(1) 生活科・理科の学習において単元構成と学習環境作りの工夫を行う。

- ① 生活科・理科学習指導において、「であろう」「さぐる」「ふかめ・ひろげる」という3段階の問題解決的な学習過程を設定し、それぞれの過程に主体的な追究を促す体験や活動を位置づける。
- ② 自然事象に対する興味・関心を高め、学習への見通しをもったり、学びのあしあとをふりかえったりできる、学級内外の学習環境作りを行う。

(2) 地域の自然や環境を生かした生活科・理科学習の教材開発を行う。

- ① 本校区の地域の特色である自然環境を生かした教材を設定する。

(遠賀川環境調査・川の生き物調査・遠賀川源流点探し・やまめの飼育放流・めだかの飼育など)

- ② 地域行事の体験活動に参加する。(さかなつり大会・I LOVE 遠賀川〈清掃活動〉への参加)

(3) 活動の実際

○ 11月・・・平成17年度福岡県小学校理科教育研究大会研究発表会開催。

○ 12～1月・実践授業分析・地域発表会準備

○ 2月・・・生き生き宮野っ子発表会(地域発表会)

○ 3月・・・平成17年度研究のまとめ

○ 4月・・・平成18年度研究の方向性検討

○ 5～7月・・・遠賀川水質検査・遠賀川源流点探し・海辺の探検活動・遠賀川河口堰の見学



授業研究の実施・教材開発



遠賀川の様子や生き物調べ



聞き取り学習(GT遠賀川にすむ魚)



- 8月・・・研究紀要作成・親子理科わくわく体験教室実施
- 9月・・・研究発表会準備・校外学習（やまめの見学）
- 10月・・・「遠賀川をきれいにする会」のさかなつり大会に参加
「I Love 遠賀川 嘉穂クリーンキャンペーン」に参加
(河川の清掃活動・自然の川で魚捕り)



平成18年度嘉麻市教育委員会研究指定・委嘱校研究発表会開催
やまめの飼育



- 年間を通して（学習環境作り）

- ・学び方を意識させ、主体的な活動を支援するための理科学習の進め方の掲示・活用。
- ・植物の成長や変化に気づき、意欲をもって継続観察ができるよう理科コーナーに観察記録を掲示。
- ・もの作りで完成した作品を展示。学級園の整備・活用。
- ・科学の不思議やおもしろさを体験し、興味・関心を高めることができるよう、サイエンスレンジャー（講師）を招いての「親子理科わくわく教室」を開催。
- ・理科への興味・関心、意欲を高めるために、週刊科学雑誌をはじめ、児童図書を充実。
- ・自然への興味・関心を高め、生き物への親しみを感じることができるように、野鳥えさ台、宮野の魚水族館を設置。
- ・成長の過程をいつでも見られるようにするとともに、生命の尊さを感じ取ることができるように、メダカ及びヤマメのビオトープを設置。

3. 結果

- 地域のひと・もの・ことを生かした体験活動を行なうことで、子どもたちは生き生きと活動し、満足感や自信を持つことができた。
- 「であろう」「さぐる」「ふかめ・ひろげる」という3段階の学習過程に沿って、表現活動や交流活動を位置づけることで、知的な気付きを促すことができた。
- 自作教材を用いることで、学習への意欲が高まり、「なぜ?」という疑問から課題作りへとつなげることができた。
- 予想や仮説をもとにくり返し追究・交流させることで、自然のきまりを理解できたという充実感を持つことができた。

4. 今後の課題と発展

- 評価を生かした単元構成を工夫していきたい。
- 学んだ知識を日常生活につなぐための単元構成をさらに工夫して生きたい。
- ものづくりにおける評価をさらに明確にしていきたい。学習カードの内容を工夫していきたい。
- 年間を通じた継続的・計画的な学習環境作りを工夫して生きたい。

5. 発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など

本校の研究が推進できましたことに対しまして、深く感謝申し上げます。今後とも、この助成事業へのご支援をよろしくお願ひいたします。